

平成 18 年(2006 年)3 月 17 日

長野県病害虫防除所

病害虫発生予察特殊報 第 3 号

害 虫 名 : イチゴコナジラミ *Trialeurodes packardi* Morrill

発生作物 : いちご

1 発生経過

平成 18 年 1 月、東信地区のいちご栽培施設で、イチゴコナジラミが疑われるコナジラミ類の蛹が農業改良普及センターにより採取された。野菜花き試験場において確認したところでも、イチゴコナジラミであることが疑われたため、同試験場から(独)農業環境研究所昆虫分類研究室に同定を依頼したところ、平成 18 年 2 月イチゴコナジラミであることが確認された。

本種は、1974 年に関東・東海の数県ではじめて発生が確認され、長野県での確認は初めてである。

2 形態

コナジラミ科に属し、成虫の体長は 1.5mm 前後である。体は淡黄色で翅は白粉に覆われている。卵は長さ約 0.4mm の紡錘形、幼虫は扁平で卵形である。蛹は体長約 0.7mm で小判形、体背面の外縁部に多数の糸状突起がある。成虫はオンシツコナジラミの体長 1.0mm 前後よりやや大きく、オンシツコナジラミの蛹は背面の糸状突起が外縁部以外の背面にも散在しているが、本種の蛹背面の糸状突起は外縁部のみであることから区別できる。

3 生態と被害

成虫、幼虫が葉裏に寄生して吸汁加害する。発生が多い場合は植物の生育が悪くなり、すす病を併発することがある。

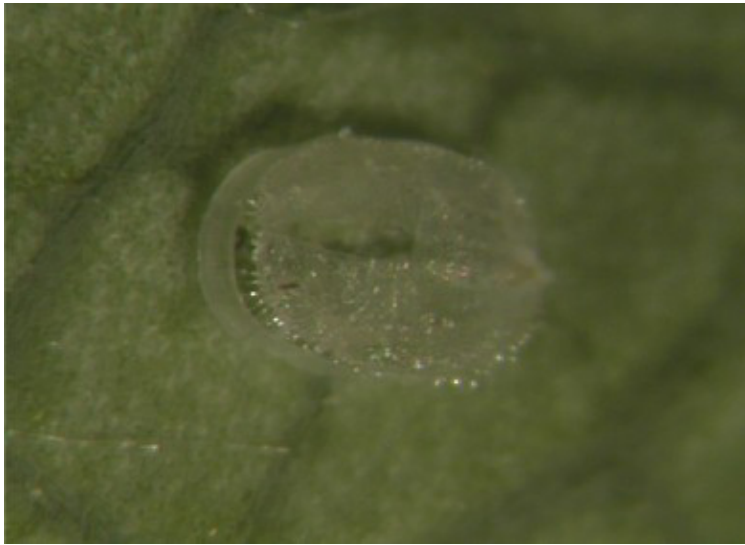
北アメリカの原産で、国内では北海道、本州、四国で分布している。寄主植物の範囲は広いが、これまでの発生事例では、いちご以外では問題になっていない。

4 防除対策

- (1) 苗を購入する場合は(特に県外からの導入)、寄生していないものを購入する。
- (2) 本種は、いちご以外にも寄生していることがあるので、ほ場周辺の環境整備を行う。
- (3) 発生が認められた場合は、いちごのコナジラミ類に登録のある農薬で防除する。

表 1 いちごのコナジラミ類に登録ある農薬 (平成 18 年(2006 年)3 月 17 日現在)

農 薬 名	希釈倍数	散 布 液 量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数
チェス水和剤	3000 倍	150~300 リットル/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
バリアード顆粒水和剤	2000 倍	100~300 リットル/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
ボタニガードES	500 倍	200~300 リットル/10a	発生初期	—	散布	—



イチゴコナジラミ蛹殻(体背面の外縁部に多数の糸状突起があり、外縁部以外には糸状突起がない)